

<平成 28 年度 日社済 社会福祉助成事業成果レポート>

平成 28(2016)年 11 月 28 日

1. 事業成果レポート

団体名	NPO 法人 NECST	代表者名	理事長 酒井 範子
事業番号	No10		
対象事業名	発達障害者の就労と就労支援を考える		
作成責任者 氏名・役職	武田 裕美子(事業運営統括)	作成責任者 e-Mail	takeda@necst.org
団体所在地	千葉県市川市市川1-12-20 トノハタビル		

2. 団体の紹介

○団体の紹介 (200字程度)

NPO 法人 NECST は、千葉県のモデル事業「マディソンモデル活用事業」を経て、設立されました。

モデル事業で育まれた精神保健福祉関係者のネットワークを継続するために、定期的な話し合いを

続け、事業としては、精神障害者および発達障害者を対象に地域生活支援と就労支援を行って

います。個々のニーズに沿った適切な支援を提供することによって、精神障害・発達障害のある

人々が、地域の中で質の高い、安定し自立した地域生活を送り続けられるようになることを目指して

います。

3. 助成事業概要

○助成事業概要(実施目的・時期・内容等)(400字程度)

<実施目的> 発達障害の特性を理解し支援方法を学ぶ場を提供し、支援者を増やす。直接支援を

する福祉関係者だけでなく、当事者・家族・雇用側の企業・学校関係者・医療関係者など、それぞれ

の立場に必要な情報を提供し、発達障害者の就職を促進し、彼らが力を発揮できる場を増やす事を

目的としています。

<実施時期> 平成28年10月28日(金)

<実施場所> 有楽町朝日ホール スクエア

東京都千代田区有楽町2-5-1 有楽町マリオン11階

<内容> 講演およびシンポジウム

第1部 「大学生の就活の“今”」 ～発達障害といつ、どう向き合うか～

第2部 「発達障害の支援とは」 ～治す？変える？何をする？～

第3部 メインシンポジウム「若者×発達障害×就職」 ～誰に何が求められているのか～

第4部 「発達障害者を雇用するとは」 ～企業の現場で起きている課題と未来～

各部とも、発表者の講義、シンポジウム、会場との質疑応答を行った。

講師およびパネリストについては、研修会アジェンダを参照。

4. 事業の成果

○事業の成果（800字程度）

<目的達成度>

当事者・家族・企業・学校・医療・支援機関、それぞれの立場において、お互いの共通点・相違点を

認識しこれからの課題を見つけることができ、パネリスト同士そして会場も含め、違う立場からの意見

や現状報告を聞くことが重要であることを再認識した。

「発達障害」という目に見えない障害をどのようにとらえ、理解し、付き合っていくか、そのポイントを

参加者が個々に見つけることができ、この研修の目的は達成できたと感じている。

<成果と課題>

当事者・家族・企業・学校・医療・支援者が一堂に会することは少なく、貴重な場を作ることができた

ことは、大きな成果である。地域社会での暮らしには様々な要素があり、全体を知らないと進み方を

間違えてしまう恐れがある。広い視野をもって「発達障害」と向き合う必要性を伝えることができたことも

大きな成果と言える。

また、就労支援を行っている私どもにとって、企業の方々の参加を得られたことも障害者就労の可能性を広げるものである。

反面、一つの面を掘り下げることができなかつたと感じている。

しかし、一度にすべてを網羅することはまず不可能と思う。今回は広く全体を伝え、次に細部を伝えていくことが望ましい形と考える。誰に何が必要なのかを知ることができたので、今後の展開に

活かしたい。

参加者にもお伝えしたが、助成いただいたこの機会をスタート点とし、今後も研修会を継続していきたいと思っている。

<参加者の感想>

参加者は101名と目標を少し下回ったが、皆さんの熱い気持ちが伝わる研修だった。

アンケートの結果、全体の満足度は85%以上（※5段階評価の選択肢から算出）であった。

以下に代表的な自由記述をご紹介します。

「医師、企業、大学の話を一度に聞けたことは、大変参考になりました。」
「医療の診断の意味、医療との付き合い方について良くわかった。」
「当事者が困り事を語る重要性、障害受容の難しさについてよくわかりました。」
「企業によって採用の仕方も雇用後の仕事の仕方もさまざまに違うということを知れてよかった。」

5. 成果の広報・公表

○成果の広報・公表（400字程度）
法人のホームページにて広報の準備中である。
この事業成果レポートと当日のアジェンダおよび発表資料を合わせて報告書とし、参加者の声の一部を掲載する予定である。
また、後援団体である「地域精神保健福祉機構コンボ」での成果報告を検討している。

6. 今後の展開

○今後の展開（400字程度）
課題にも挙げたが、今後は「学生対象」「支援者対象」「企業対象」それぞれの研修の継続をしていきたいと考えている。助成をいただいたことで、多分野の講師を招聘することができた。このような
多岐にわたる研修を実施できたことは、当法人が「発達障害」を伝え就労を支援するうえで大きな力
となるものであった。
この成果を活かし、これからは小規模で参加型の研修を行いたい。参加者個々の課題を話し合える
ような場を提供したいと思う。
また、学生の参加は少なかったが、グレーゾーンの学生が多くみられるのが現実である。
今回参加いただいた学校関係者、様々な取り組みを行っている学校などと連携し、彼らが社会人として
育っていかれるような支援を行っていきたい。